

ダイオード検波回路の時定数

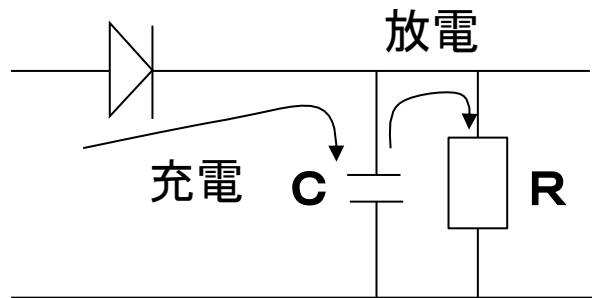
コンデンサの容量 C と、コンデンサに充電される電荷（またはコンデンサから放電される） Q 、電圧 V の間には次の関係がある。細かい話は電磁気学や応用物理学に任せる。

$$Q = CV$$

コンデンサに充電される電荷（またはコンデンサから放電される電荷）と、そこに流れる電流 $i(t)$ の間には次の関係がある。

$$Q = \int i(t)dt$$

抵抗 R とコンデンサ C で形成された回路について考える。



抵抗 R にかかる電圧 $v_R(t)$ とコンデンサの電圧 $v_C(t)$ はそれぞれ、

$$v_R(t) = Ri(t)$$

$$v_C(t) = \frac{Q}{C} = \frac{1}{C} \int i(t)dt$$

キルヒホッフの電圧則から、

$$v_R(t) + v_C(t) = 0$$

$$Ri(t) + \frac{1}{C} \int i(t)dt = 0$$

ここで、右端を出力として出力電圧 $v_{out}(t)$ は抵抗 R にかかる電圧 $v_R(t) = Ri(t)$ と考えれば、

$$v_{out}(t) + \frac{1}{C} \int i(t)dt = 0$$

また、 $v_R(t) = Ri(t)$ より、 $i(t) = \frac{1}{R}v_R(t) = \frac{1}{R}v_{out}(t)$ であるから、

ダイオード検波回路の時定数

$$v_{out}(t) + \frac{1}{CR} \int v_{out}(t) dt = 0$$

時間で微分すると,

$$\frac{dv_{out}(t)}{dt} + \frac{1}{CR} v_{out}(t) = 0$$

$$\frac{1}{v_{out}(t)} \frac{dv_{out}(t)}{dt} = -\frac{1}{CR}$$

この微分方程式を解いていく.

$$\frac{1}{v_{out}(t)} \frac{dv_{out}(t)}{dt} = -\frac{1}{CR}$$

$$\int \frac{1}{v_{out}(t)} \frac{dv_{out}(t)}{dt} dt = -\frac{1}{CR}$$

部分積分の公式を用いると,

$$\frac{1}{v_{out}(t)} v(t) + \int \frac{1}{v_{out}(t)} dt = -\frac{1}{RC} t + A$$

$$1 + \log v_{out}(t) = -\frac{1}{RC} t + A$$

$$\log v_{out}(t) = -\frac{1}{RC} t + A'$$

$$v_{out}(t) = \exp\left(-\frac{1}{RC} t + A'\right)$$

$$v_{out}(t) = A'' \exp\left(-\frac{1}{RC} t\right)$$

コンデンサから放電される直前 ($t = 0$) の電圧を $v_{out}(0) = E$ とすれば,

$$v_{out}(0) = A'' \exp(0) = E$$

$$A'' = E$$

よって,

$$v_{out}(t) = E \exp\left(-\frac{1}{RC} t\right)$$

が得られる.